

1 橋の名前

白川にはたくさんの橋が架けられています。橋の名前はどのように付けられているか知っていますか。安巳橋は、江戸時代の終わりごろの安政4（1857）年、干支が巳の年に架けられたので、安巳橋とつけられました。江戸の細川藩邸にいた人たちが引き揚げてきて、新しい市街地「新屋敷」がつくられたため、白川を渡る橋が必要になったのです。長六橋は、江戸時代のはじめ、慶長6（1601）年に架けられたので、慶長の長と六年で長六橋です。明午橋は、明治3（1870）年が午年だったので、明と午で明午橋です。



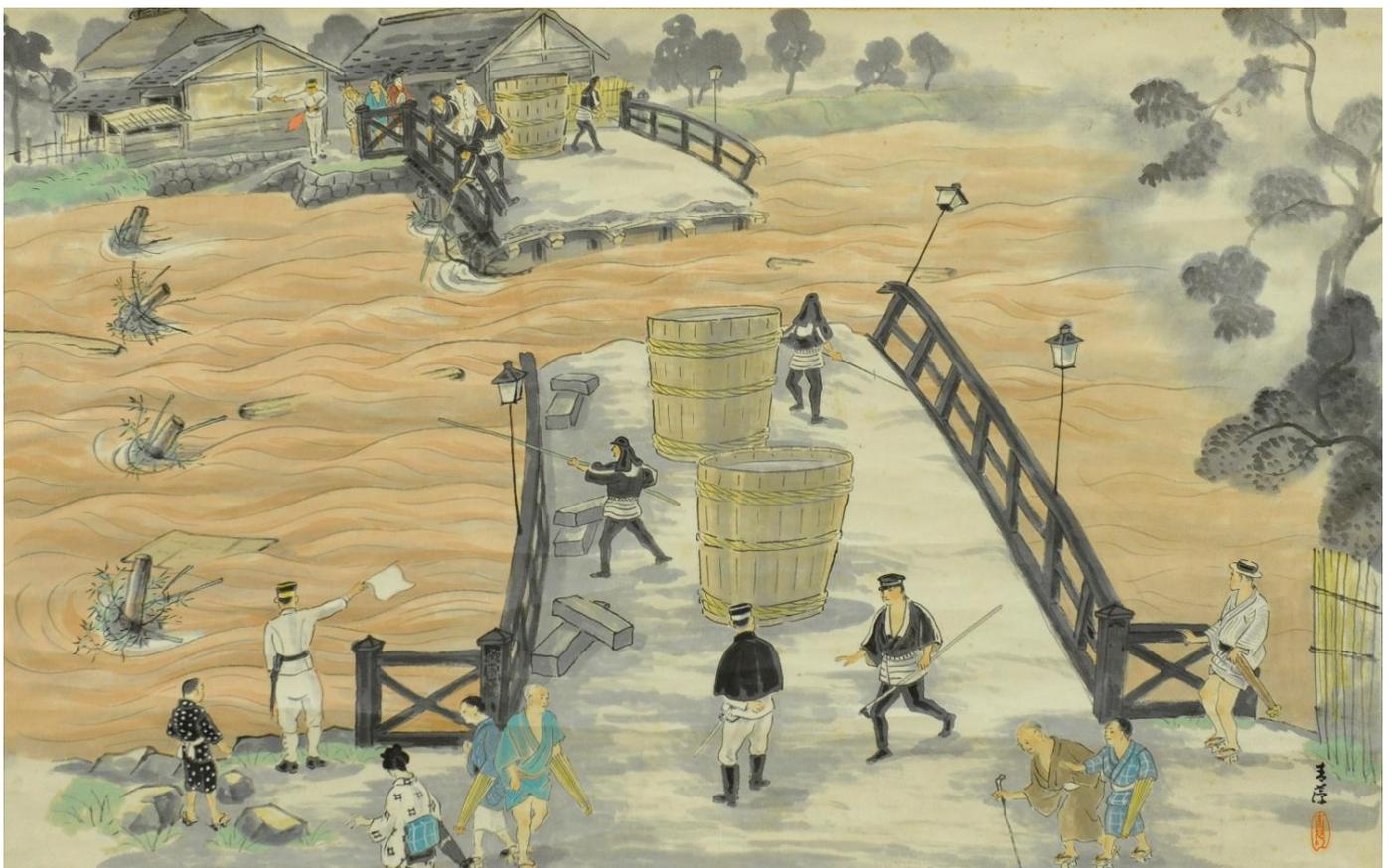
安政4（1857）年に架けられた安巳橋（岡山古写真コレクションから）

2 白川の水害

白川は、たびたび大きな水害を起こしてきました。昭和28（1958）年の6.26水害（昭和28年西日本豪雨）では、阿蘇の噴火で降り積もった火山灰などとともに熊本へと流れてきて熊本の街を覆いつくしました。その前に被害が大きかったのが、明治33（1900）年の洪水で、阿蘇市の内牧から熊本までのすべての橋が流されたと記録されています。この時に安巳橋も流されてしまいます。その時の様子を画家の甲斐青萍が描いた絵が残されています。



手前が現在の安政町で対岸が九品寺です。流れてきた水がは今にも橋の上までこようとしており、手前の地面には人々の膝まで水が溢れています。橋の上には、橋が流れないように重しにした大きな水桶と石が置かれ、警防団の人たちが橋を護るために働いています。(熊本博物館蔵)



こちらは流されてしまった後の写真です。橋は中央部分が流されてしまい、おまわりさんは両岸で声が届かないために手旗信号でやりとりし、警防団の人たちはトビ口や竹竿を手にして、流れてきた木などが橋に当たるのを防いでいます。まだまだ水の勢いはまだ衰えず、近所の住民たちは心配そうに泥水が流れる川の様子を眺めています。（熊本博物館蔵）



大正4（1915）年のスタンプが押された安巳橋を渡る軽便鉄道の絵葉書（岡山古写真コレクションから）

明治40（1907）年には、安巳橋から水前寺まで小さな蒸気機関車が引く軽便鉄道が開通します。大正9（1920）年には廃止されます。大正12（1923）年にも水害を受けて再建されます。このころには鉄やコンクリートの橋が架けられるようになりますが、安巳橋は木造のままでした。昭和28（1953）年の6.26水害でもほかの橋とともに流されてしまい、木造で再建されました。

3 今の安巳橋とこれから

昭和43（1968）年になって、ようやく鉄で造られた橋が架けられました。私たちが目にしている現在の安巳橋です。現代では、流されないように丈夫で、また川の流れを妨げないような橋が架けられています。さらにそれだけでなく、周囲の景観や地域の特性などを考えた橋が架けられるようになってきています。安巳橋だけではなく、それぞれの橋にはそこに住む人たちの暮らしを支えてきた歴史があります。川の両岸をつなぐだけでなく、歴史も大事につないでいきたいものです。

【参考文献】

戸塚誠司・小林 一郎 1998「熊本・白川における橋梁変遷史」『土木史研究』18

戸塚誠司 1999「熊本県下における近代橋梁の発展史に関する研究」博士論文

伊藤重剛 2017「甲斐青萍町並画集」熊本日日新聞社

○古写真は九州記念病院岡山山洋二理事長のご厚意で使わせていただきました。

また、甲斐青萍の絵は熊本博物館の所蔵となっており、許可をいただいて使用しています。



昭和 43 (1968) 年に架けられた現在の安巳橋



白川に架かる道路橋 (熊本市中心部)